

第三次小樽市観光基本計画策定委員会(第2回) 会議議事録

日時:2026年1月13日(火)13:30～

場所:小樽市役所別館4階第3委員会室

1. 開会

- ・ 事務局より開催案内。
- ・ 配布資料の確認。

2. 議事

- ・ 進行:委員長。

(1) 第1回小樽市観光基本計画策定委員会振り返り【資料1】

- 事務局より第1回委員会の議論内容について資料1のとおり説明。

質疑応答

- ・ 質疑等なし。

(2) 市民ワークショップ実施報告【資料2】

- 事務局より市民ワークショップの実施内容について資料2のとおり報告。

質疑応答

- ・ 質疑等なし。

(3) 小樽市事業者ヒアリング実施報告【資料3】

- 事務局より資料3のとおり小樽市事業者ヒアリングについて資料3のとおり報告。

質疑応答

- ・ 質疑等なし。

(4) 来訪者調査報告【資料4】

- 事務局より来訪者調査について資料4のとおり報告。

質疑応答

- ・ 今回の会議資料は市民ワークショップや事業者など、ステークホルダーの意見に関するものが多いことから、来訪者の意見や動向などの把握も必要。次回以降、小樽市や小樽観光協会が実施した調査も参照し、検討材料としたい。

(5) 各報告を踏まえた今後の観光基本計画の方向性に関する意見交換【資料5】

- 事務局より今後の観光基本計画の方向性について資料5のとおり説明。

各委員からの意見(発言順)

- ・ 3つの調査から資料5の通り、まとまっている印象を受けた。内容については関係するそれぞれの主体の視点から細かい意見があるのではないか。市の計画である以上、行政が主体となって進める部分を前面に押し出すべきであると考えている。民間同士で高めあっていく部分については、観光協会と強く連携して進めていかなければならないという点は既に認識があると考えている。
- ・ 小樽の魅力をいかに来訪者に伝える上で、魅力の1つとして日本遺産がある。小樽の歴史や街並みの説明は、3つの日本遺産を通して大部分を説明することができる。しかし市民へは日本遺産が普及していないと考えており、市民への普及活動、日本遺産を活かした観光地づくりが必要なのではないかと考える。人材育成について、第2次の中に子供向けホスピタリティ向上のためのメニューという項目もあった。小学校の総合学習で、おたる案内人ジュニア育成プログラムを実施してきた。これは子供だけではなくその家族へも効果があると考えている。このような若い世代の人材育成は重要であると認識している。
- ・ 小樽の優位性は景観と歴史が中心であると考えている。ガイドをしていてもそれらについて来訪者からの評価、期待値は高い。空間、時間的に分散させることが求められているものの、周遊エリアは堺町、色内銀行街、運河周辺にとどまっている。北運河への回遊性など、その中でいかに小樽の魅力を伝えるかという点に苦労している。一方でコンパクトな観光ができるとも言える。日帰りでも小樽観光は可能であり、強みとしても捉えられる。課題として、第2次観光計画では観光リスクマネジメントについて触れられていない。感染症や政治に起因する問題、自然災害などの単なるオーバーツーリズム以外のリスクについても反映して検討いただきたい。具体的な施策はDMOが担うと認識している。
- ・ 行政の計画等について、内容が市民に理解されていない、伝わっていない課題があると認識。これまでの議論のほかに、本計画をどのようにして市民に周知していくのかという点も重要と考える。また、観光のまち小樽ということについて、市民からの認知度や関心が低い傾向がみられる。日本遺産等を活用して観光を市民に認知してもらう活動をしているが、スタッフが不足している等の課題がある。行政には旗振り役としての役割を期待している。
- ・ 各種調査報告については多面的にまとめられている印象を受けている。一定の国からの来訪者に偏った観光は持続可能性がなく、多様な国からの来訪者をターゲットにする必要がある。感染症は度々問題となるが、それに対する対策を盛り込んで欲しい。例えば宿泊税の中に、緊急時に使用する予算を積み立てる等が考えられる。インバウンドについては国別や宗教別に対応方法が異なるため、インバウンドというくくりからさらに細分化していく必要がある。札幌から近く、エリアがコンパクトであるため観光が日帰りでもできる点で進めていくべきかと思う。地域によっては民泊等で

住民の住む場所が減ったケース等があり、そういった点で市民生活と観光の間に溝ができています。また観光によって収入が増えたとは聞かれますが、地元の事業者には収益が還元されているのか等、地元事業者へのメリットを明らかにし、経済的な視点も盛り込んで計画策定してほしい。

- ・ これまでの委員の意見については同意する。資料2の p3から p4に掲載されている市民ワークショップで出た課題として交通アクセスが挙げられているが、課題として認識するに留めず、具体的な数値に基づく分析ができると良い。リスクマネジメントの基金については北海道も4月より宿泊税を徴収するがその中で同様の話題は出ている。初動対応としての財源確保は必要だと考えている。DMOのガイドラインが改正される中で DMO に対し安定的な運営資金の確保も要件とされている。昨年 11月に小樽観光という冊子を作成し市民へ配布したと聞いている。市民へ、観光が小樽市の経済に寄与している点を示すうえで重要な活動であると認識している。これが持続的に進められると良い。
- ・ 市民の理解を得つつ観光振興を進めることが重要だと考える。市民ワークショップは細かい意見が多いが、観光に携わっている人が参加したワークショップのような印象を受けている。観光に携わっていない市民からも意見を集められるとよい。事業者からの課題解決策としても挙げられているが、小樽の産業構造を市民へ見える化し、その中で観光が果たす役割の重要性を明らかにしたい。宿泊税は市民向けの還元という視点を入れ検討してほしい。それによって観光産業への理解の深化や繁閑の格差是正が期待できる。
- ・ 宿泊税について、北海道では、管内周遊、交通関連人材確保、グリーンシーズン対応、訪日外国人へのマナー啓発の4つの柱で進める予定である。周辺市町村への周遊という面で連携していきたい。オーバーツーリズムについて小樽市では重要課題であると認識しているが、管内では観光客だけではなく、外国人季節労働者に起因する問題も生じているのでその視点も必要かと思う。
- ・ ナイトタイムについて、昨年水天宮のライトアップ事業を実施したが、来訪者は近隣からが中心となった。交通の便の悪さがネックではないかと考える。事業者ヒアリングの部分について、飲食店へのヒアリングも実施してほしい。人材については、住民だけでなく、外国人を含む季節労働者を積極的に雇用していくことも必要と考える。
- ・ キャッシュレス対応が遅れている点は実感している。一方で、経営の視点に立つとキャッシュレス化にコストがかかってしまい、価格が上がると需要が減ることを危惧している。ナイトタイム営業をしている店舗が少ないのは人材が不足している点が多いと実感している。保育所の開所時間など、労働者を取り巻く環境という面で、営業時間を延長することは容易ではない。空き家となった建物を保存するにも壊すにも金がかかる。映画やドラマの撮影による集客効果は大きいので、ロケの誘致施策が必要であると考えます。

- ・ 情報発信について、情報の一元化が重要であると認識。資料4にもあるが、地域と来訪者の交流が重要ではないかと考える。小樽市は個人経営店舗の多さが魅力であり、域外からの移住者もローカルなつながりを魅力として移住してきた人も多い。小樽の魅力再認識できる情報発信を提案していきたい。
- ・ 重要なのは「お金」ではなく「人」であると考えている。人に対して視点を当て取り組むべきであると考えている。ルタオは毎月地元住民へ折り込みで広報をしている。このように毎月活動を実施するなどの地道な活動の継続が市民意識啓発へつながると感じている。また、第2次の振り返りも必要と考える。
- ・ スマホデータに基づく人流データについて、点ではなく、線としての経路や面としてのエリアという視座で来訪者の動きを見たい。初めて小樽に来た人とリピーターへの案内は異なると認識。初回ではなく、2回目3回目の来訪者へも訴求できるディープな魅力や札幌市民も知らない花園の魅力などを活用してもっと魅力発信していきたい。昼は堺町、夜は花園という認識を進めても良いと考え、広報方法で解決できるのではないかと考える。
- ・ 12月に仙台の百貨店で開催した物産展では、前年の約1.3倍の売り上げがあった。小樽の知名度や人気度が高いのだと実感した。小樽の良さを、物を通じて全国や世界に向けPRし来訪へ繋げたい。生産者や製造者は増えてきており、物産協会では新商品を市と連携して開発を始めている。そのような意味で小樽の新しい魅力づくりを、物産協会を通じて実施していく。市民理解については経済効果等が市民生活にどのように関わっているのかをわかりやすく伝える必要があると感じる。また、オーバーツーリズムにならないよう受け入れ態勢を整備する必要があり、安全に楽しめる観光が必要と考える。ふれあいという視点では、観光客と住民の交流が再訪の動機となる。その環境として小樽屋台村レンガ横丁などの形で増やしていくとよいのではないか。
- ・ 小樽市の優位性は歴史や建築、観光エリアのコンパクトさがあるのではないかと考える。工夫次第では滞在型観光につなげるポテンシャルを持っている。ボランティアガイドは町が好きでガイドをしており、それが来訪者へも伝播している。無人バスの実証実験もあったが、交通の弱さが観光体験満足度を低下させていると感じている。観光エリア内だけの周遊だと、市内唯一の温泉郷である朝里川温泉への来訪が不便であり、その点を改善していきたいと考えている。
- ・ ホテル事業者として、ナイトタイムが課題であると感じている。ホテルは増加しており、夜間でも観光客が歩いている。観光客は夜の飲食店に一見では入りにくいなどの課題も聞こえてきている。台湾の夜市のようなイベントで交流できる場を設けることもひとつの解決策であると思う。小樽市は観光エリアとしてはコンパクトであるが、歩道整備が不十分であり、その点の整備をできるとよい。二次交通や駐車場を整備することで北運河へも来訪が期待できると考えている。駐車場については案内等の仕

組みを作るとスムーズに受け入れができると考える。小樽市は後志や積丹、ニセコ等へのハブ的な街として、広域的に拠点としてアピールできないのかと考えている。また、長期滞在によって消費額が増え、満足度も高まると考えている。人材不足も実感しており、市民への発信や、長期的には教育等による若年層への発信により、意識の高い人が育つまちづくりの観点も必要ではないか。

- ・ 観光が産業として発達していくための計画となるとよい。ラグジュアリーホテルが余市やニセコ、札幌にでき始めている。裕福な顧客層が後志に来訪する可能性が出てきている。そのようなこれまでとは異なる顧客層の来訪者を小樽へ呼び込み、更なる展開を期待する。小樽市に訪れた来訪者の観光消費額は1000億円/年であり、市民の消費額は1300億円/年。これまで掲げていた目標である来訪者数800万人という人数のほかに、金額的な目標値を立てても良いのではないかと考える。観光消費額が増加するとシャワー効果で土産、飲食等、市民生活へも波及効果があるのではないかと考えている。
- ・ 皆様の話聞いており、行政や観光協会等、データを持っている団体は次回の委員会にて提出してはどうか。現状を具体的な数値で正確に把握することで、適切な施策や方向性を考えることができる。

その他質疑

- ・ 第2次計画は手元にあるが、第3次は構成や策定の進め方はどのようになるか。
 - 手続きの面では、委員会で素案として観光基本計画を作成し、提言として市に示す。市は提言として提出された観光基本計画案をもとに、パブリックコメント等の手続きを実施し、策定する。構成については、第2次基本計画との比較で大きく変更となる点は、第2章主要施策の細かな施策について、DMOの観光地経営計画に移行させ、本計画ではその方向性を示すという点である。
 - 第2次の計画の詳細な列挙されている施策は本計画には載らないと認識した。
- ・ 多方面から意見を貰った。魅力は共通点が多かったが、課題点は様々挙がった。今回の第3次計画に反映したいと考える。
- ・ 事務局より、本委員会での意見中、共通して見られたものについて、市の取組の情報共有。

(1) リスクマネジメント

現在宿泊税については市で予算編成を進めている。2025年11月に宿泊税検討会議から不測の事態への備えとして基金を積んでおくべきだという提案を貰っている。宿泊税は概算で2億円/年を想定しており、初年度に5000万円、次年度以降は1000万円/年を目安に積立ていき、上限1億円を想定。

(2) 市民意識・認知度について

「市民の暮らしと小樽観光」というリーフレットを2025年11月に発行しており、市民意識醸成は継続的に取り組んでいく予定である。

(3) フィルムコミッション

小樽市には市が事務局を担う小樽フィルムコミッションという団体がある。ロケに関する手続き等の支援の取組を実施している。ドラマの集客効果は大きいと市も認識している。近年の実績も複数あり、継続して実施している。

(4) データについて

人流データについては、市のホームページでR6年の年間データを公表している。

- ・ 特に人材不足が重大な課題であると認識しており、デジタル技術でカバーできる部分もあると考える。学術的なオーバーツーリズムの定義に当てはまるものは、実は多くはない。他地域においては、日本特有のマナー関係の問題についてや、オーバーツーリズムがインバウンドに起因するオーバーツーリズムではなく日本人観光客によって引き起こされている実態もあるため慎重に検討したい。市民の認知度については課題であり、どのように観光業の利益を住民へ伝えていくのかを検討することは重要であると考え。小樽市への税収増加がどの程度なのか等をグラフや数値で示すような伝え方も必要ではないかと考える。また、どのように市民参加を促すのかという点について、それによって負担を感じず、来訪者は満足度が高まる状態が理想である。住民としては来訪者と関わることがウェルビーイングに繋がっていくことが最終目標と考える。本委員会での意見や議論は、内側からの目線であるが、小樽外からの視点も盛り込むべきであると考え。

3. 閉会

- ・ 次回は、本委員会で意見が出た、市や観光協会が保有する各種データのとりまとめ結果の報告を実施する。
- ・ 第3回策定委員会は3月3日(火)14時から小樽市消防庁舎6階消防講堂にて実施する。

<配布資料>

- 【資料1】第三次小樽市観光基本計画策定委員会(第1回)議事概要
- 【資料2】市民ワークショップ実施報告書
- 【資料3】小樽市事業者ヒアリング報告書
- 【資料4】来訪者調査
- 【資料5】市民ワークショップ、小樽市事業者ヒアリング、来訪者調査まとめ